静岡福祉大学・静岡福祉大学短期大学部

学報

2007.1　No.6

# しずおか福祉

〒425-8611　静岡県焼津市本中根549番1　TEL.054-623-7000 FAX.054-623-7453　http://www.suw.ac.jp

## 21世紀の新しい社会システムづくりと地域福祉

**去る十月二十四日(火)、本学新校舎(福祉創造館)において日本社会事業大学・大橋謙策学長による校舎竣成記念講演が行われました。社会福祉の大きな変化および、来るべき時代に向けて、どのような専門性が期待されるかなどについて、福祉・地域関係者の皆様や本学学生に対し、貴重なメッセージを頂戴しましたので、講演要旨を記載します。**

日本社会事業大学・大橋謙策学長

### ますます重視される専門資格

新校舎の竣成本当におめでとうございます。新しい校舎の愛称「福祉創造館」は大変いい名前です。二十一世紀の社会福祉の担い手は、縦社会ではなくネットワーク型の横社会の中で主体的に考え、行動していかねばなりません。すでに構造改革がさまざまな形で進んでいますが、社会福祉も例外ではないでしょう。一九九〇年まで社会福祉分野で働く職員の資格や技量はほとんど問題になりませんでした。日本人は「場」を重視してきただけに、ある枠組みを尊重し、その中で仕事さえしていればよかったのです。

しかし価値観が多様化し、一人ひとりの生き方をもう一度問い直そうという今、職員一人ひとりの能力が豊かにならなければ社会福祉の仕事は成り立ちません。一九九〇年以前の社会福祉は入所型施設を中心にしたサービスといってよいでしょう。市町村行政も「指示待ち」行政で事足りました。ところが在宅サービスの時代に入ると、全国一律というわけにはいきません。中央集権的なサービス提供ではなく、地域単位で丁寧にサービスを構築しなければならないのです。それだけに職員一人一人の職業資格と技能が問われます。福祉系大学の卒業生もこれからは社会福祉士や介護福祉士などの資格がなければ一人前と見なされないでしょう。医師や看護師と同じように専門資格を取ることが仕事の条件といってもよいのです。しかも、地域での自立生活を支援をするという、支援のノウハウに着目した勉強が必要とされます。

### 福祉の担い手の人間観が問われる

したがってソーシャルワークにおいてはイマジネーションとクリエーションの二つの「想像・創造」が重視されます。サービス利用者がどういう状況の中で生活しているか、思いを巡らし、いかに援助し、人生を作り上げていくか、クリエートできなければいけません。利用者がその能力を最大限発揮するために、相手の意欲をいかに引き出すかです。ジャン・ジャック・ルソーは「呼吸することと生きることは違う」と書きましたが、ソーシャルワーカーの人間観や生活観が問われるということです。かつソーシャルサポートネットワークの観点から近隣住民の力が重視されます。

### 福祉の価値観としての「博愛」

そのためには、「慈善」ではなく「博愛」という価値を共有しなければなりません。我々は、生まれながらにして自由と平等を行使できない人の幸福を追求する権利を共に担わなければなりません。それが「共生」です。こうした博愛が福祉教育の原点にあります。世界には一日一ドル以下で生活している人が十三億人以上います。イギリスのボランティアは五〇〇〇万人と言われますが、その中で一番多いのが金銭ボランティアです。日本でも今後は行政と住民がお互いに知恵を出し合い、お金を出し合って、二十一世紀の新しい仕組みを作っていかなければなりません。

福祉とは、我々の生活に欠かせない思想でありサービスです。社会福祉サービスがなければ地域が成立しない時代に我々は生きています。皆さんもぜひ市町村行政等と連携し、「福祉こそが町を活性化する、人づくりの原点となる」という視点で頑張っていただきたいと願っております。

# 学内活動紹介

～大学と地域の架け橋を目指して～

## 精神保健福祉研究会【くるる】

平成十八年六月に正式発足した精神保健福祉研究会【愛称くるる】では、福祉心理学科山城厚生教授と実習センター吉永洋子助手の支援を受けながら、学生が主体となってさまざまな活動に取り組んでいます。今回は、【くるる】の定例会にお邪魔してきました。当日出席の八名の学生の皆さんからいろいろとお話を伺ってきましたので、それをまとめてご紹介いたします。

「くるる」のメンバー

**【くるる】って？**

これは、【聴く・知る・触れる】の三つの言葉の語尾から取った言葉です。

【くるる】の活動目的には「地域精神保健福祉の未来を創造する」という非常に大きな文言が掲げられています。具体的には、大学における知的な勉強と地域で行われている実践をつなげられるような活動を目指しています。

**【くるる】は何をするところ？**

初年度である今年は、大学祭で「喫茶コーナー」や展示、さらにアンケート調査などを行いました。また、地域から依頼されたイベントのお手伝いも行ってきました。二年目となる来年の七月は、研究発表会を予定しています。そこでこれから、その準備に向けて勉強をしていく予定です。

地域から依頼されたイベントには、精神保健福祉ボランティアサークル「ところ」から依頼された精神保健福祉サロンがあります。精神保健福祉サロンとは、地域に住む精神障害者の方たちが居場所や仲間を求めて参加される交流の場のことです。こうしたサロン活動は、参加されている方たちの居場所や仲間づくりを促進するという目的があり、大変重要なことです。私たちはこうしたサロンで、精神障害者の方たちとお茶を飲んでおしゃべりをする、あるいはカラオケなどのレクリエーションを一緒に行うなどといった活動を行ってきています。

このように、【くるる】は精神障害を持つ人を「知りたい」「触れたい」、話を「聴きたい」という者にとっては非常に学ぶことの多い場になっています。

**【くるる】のメンバーは何名？**

現在、【くるる】に入会している学生は十五名です。学科別にみると、精神保健福祉士の受験資格を取得することができる福祉心理学科の学生が一番多いのですが、福祉情報学科や介護福祉学科の学生もいます。先輩後輩の感覚はほとんどなく、一年生から三年生まで和気あいあいとした雰囲気です。

ちなみに、三年生全員が精神保健福祉士を志望しているのですが、卒業後は新たに「卒業生会員」として、引き続き活動していきたいと思っています。

**大学祭での【くるる】**

今年度の大学祭で【くるる】は喫茶コーナーを行いました。そのコーナーの中で【くるる】の紹介と志太・榛原地区にある精神障害関連の作業所について展示しました。

現在、志太・榛原地区には十施設があります。作業所での作業内容は、クッキーづくりや洗濯物干しの金具製作などさまざまな活動を行っており、また作業所の運営のあり方などについても各自の特色があります。来室された方たちには、お茶を飲みながら、こうした展示をご覧いただきました。あまり知られることのない精神障害関連の作業所について、多くの方々に関心をもっていただくことができたのではないかと思います。

さらに、こうした展示と合わせて当日は喫茶コーナーにいらしたお客様へアンケート調査も行いました。これは地域の方の精神保健福祉あるいは精神障害者に対する意識についてお尋ねするものです。具体的には、精神障害者に対する知識の有無や精神障害者に対するイメージ、あるいは作業所などの地域にある社会的資源に対する認識の有無などに関する質問を行わせていた

大学祭で展示した「精神保健福祉マップ」

大学祭での販売風景

だきました。現在、このアンケート結果は集計中です。これは、来年七月予定の研究発表会のときにご報告させていただきたいと思っています。当日、アンケートにご協力いただいた皆様につきましてはこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

大学祭での販売の展示

## 【くるる】の研究発表会

来年七月ごろに【くるる】の研究発表会を計画しています。現在、検討している発表内容は、（1）精神保健福祉サロン「ととろ」に参加した報告、（2）障害者自立支援法による影響、（3）精神保健福祉に関する意識調査の報告という三点を予定しています。

最初の精神保健福祉サロン「ととろ」に参加した報告については、現在のところ、事例を踏まえながらまとめていきたいと考えています。

また、障害者自立支援法は今年度から施行された法律です。そこで一般の方にはあまりご存じないかもしれない障害者自立支援法の内容について紹介すると同時に、障害者自立支援法によって地域で生活している精神障害者の方たちがどのような影響を受けているかということについて報告していきたいと考えています。

そのため、精神保健福祉サロン「ととろ」に参加されている精神障害者の方たちを対象に、障害者自立支援法が精神障害者の生活にどのような影響を及ぼしたのかという聞き取り調査を行う予定でいます。現在は、その調査の計画を立てている段階です。

このように、未熟ではありますが、会員全員が発表に向けて一所懸命に取り組んでいます。来年の発表会の際には、多くの学生の皆さん、そして地域の方々に聞きに来ていただけたら、とても嬉しく思います。皆様のお越しをお待ちしております。

## 【くるる】の良さは？

【くるる】の良さは、「誰かにやらされる」のではなく「自らやる」という学生主体の活動であることです。私たち学生が企画したことに先生を巻き込むような形で活動することは、とてもハリのある楽しいことです。そして、お互いに十人十色の意見を自由に言いあうことができ、それらの意見をお互いに尊重しあう雰囲気があることも【くるる】の良さといえます。

インタビュー風景

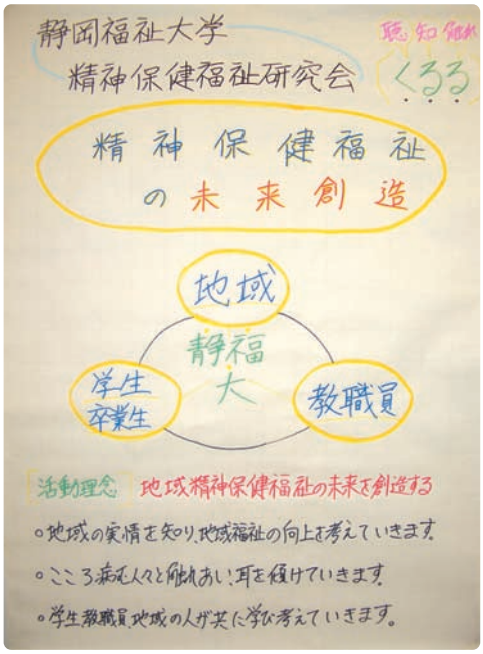
また、他の学年の学生との交流ができることも【くるる】の良さです。これは、【くるる】が単なる親睦の場というものではなく、それぞれの経験や考えをお互いに語り合って知りあうことができる交流の場になっているからです。こうした視野の広がりは、新たな気づきを生んで、結果的に自分自身の成長にもつながることを実感することもあります。

## 将来の【くるる】は？

まず、三年生は精神保健福祉士の全員合格！を目指したいという、大変現実的な目標があります。国家試験対策もお互いに支えあいながら、残り一年間を勉学に励みます。

さらに、将来、自分たちが卒業して精神保健福祉の現場に就職したときに、「【くるる】でやっていて良かった！」と思えるような活動に【くるる】をしていきたいと思っています。

ですから、今後は、活動の場をさらに広げ、さまざまな企画を立てていきたいと考えています。



「くるる」の「組織図」

## 【くるる】からのメッセージ

心について関心のある学生の皆さん、是非、一緒に活動しましょう！

また、精神保健福祉に関心のある地域住民の方や専門職についておられる方たちからのご参加やご意見をいただければ、大変有難く思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【くるる】は、出来立てホヤホヤという発展途上の研究会です。活動はこれからです。だからこそ、会員全員が「やるゾ！」と張り切っています。

こんな状態にある【くるる】です。どうぞ、【くるる】にご協力とご支援の程をよろしくお願いいたします。

（取材日：平成十八年十一月二十八日）

# 第三回静福祭

## 〝HAPPINESS〟大盛況！

十一月十四日、第三回静福祭が開催されました。今年のテーマはHAPPINESS。誰もが楽しく心満たされる学園祭にしたいとの思いで生まれたテーマで、学生投票で決定しました。このテーマにあるように当日は、老若男女、三千人を越える来場者が皆笑顔で学内を賑わせていました。ここでは、学園祭の様子とそこに至るまでの実行委員の奮闘ぶりを報告します。

さあ、静福祭開催!

### 一　静福祭ならではのユニーク企画

静福祭では、学生、教員はもちろん、地域住民の方々を交えた様々な企画が行なわれました。十月に落成したばかりの福祉創造館四階では、学生が中心で結成された精神保健福祉研究会〝くるる〟が、自前の喫茶店内で、志太地区にある精神保健福祉施設を詳しく紹介したポスターを展示していました。

精神保健福祉施設で作られた品物販売

その店内では、それぞれの作業所で創られた、乾燥コンニャク、コーヒー、タオル、キーホルダーなどの販売が行なわれ、売れ行きも上々でした。

うさぎの里親になりたい!

また、本学のボランティアサークルが中心となって、子どもに様々な遊びのプログラムを提供したり、ウサギの里親探しなどの企画も行なわれました。

教員の企画では、福祉心理学科・福祉情報学科・介護福祉学科三学科それぞれの特色を生かした企画が行なわれました。

福祉心理学科では心理学を体験してもらうために、錯視図形や心理テストを、福祉情報学科では、福祉情報に馴染んで貰うために、拡大読書器のような福祉情報機器などの体験を、そして介護福祉学科では介護体験ということで、食事介護や車椅子・福祉用具体験などを体験していただきました。

それだけではありません。静岡福祉大学最大の特徴である、地域との連携プレイも随所にみられました。

フォーラム焼津の様子

地元焼津の商工会議所女性会では、〝フォーラム2006　うぇるねす焼津〟と銘うち、本学学長をコーディネーターにむかえ、「焼津おでん探検隊」「焼津まちの駅」「浜言葉を遺す会」の方々と共に、焼津の文化を来場者にアピールしました。なお、介護福祉学科一年生の協力により、各団体の展示と「手作り黒はんぺん」「焼津おでん販売」も行いました。

### 二　個性豊かな模擬店

今年の模擬店も軽食、フリーマーケットから、フェアトレード(途上国の商品を先進国の適正価格で直接取引すること)まで、個性豊かなラインナップとなりました。

種々雑多な模擬店が並びゆくなかで、一際目立っていたのは、焼津おでん隊による黒はんぺん実践販売でした。実際に魚のすり身を木で作られた鋳型に取り、湯通しすることで、黒はんぺん一丁あがり。皆ハフハフしながら食べていました。

黒はんぺん作りの様子

その他、定番の焼きそば、たこ焼きから、綿菓子、カレーなどおいしい匂いがキャンパスに充満していました。

静福祭初の試みとなるフェアトレードは、地域交流センター藪崎職員の提案で、ボランティアサークルが実戦部隊となって行なわれました。バングラディシュ、ネパールなどの途上国で作られた品物を直接輸入して、販売するということで、普段日本ではあまり目にしない変わったアクセサリー、ニット帽、クリスマスカードなどの品物が並びました。

フェアトレードでの販売

### 三　人だかりのステージ企画

今年のステージ企画も、学生、教職員のライブ演奏から、お笑い芸人によるライブ、ダンス、ミスコンテンスと盛りだくさんでした。

ライブ演奏では、学生のドラムに教員のリードギターとベースで、なつかしの〝パイプライン〟が演奏されました。大学祭直前に結成された「にわか」バンドとは思えない切れのある動きと演奏が印象的でした。

学生と教員の「にわか」バンドの演奏

例年、静福祭に来る芸人は、これからブレイクするというジンクスがありますが、今年はまさにブレイク中の芸人〝タカアンドトシ〟が大歓声の中、ネタを披露していました。その洗練されたネタにステージは爆笑の渦につつまれました。

学園祭の前日は大雨で、グラウンドの状態が余りよくなく、ステージの設置や準備に時間がかかったことから、当日のスケジュールは大幅に変更になりました。その上冷たい風が吹き荒れる中、来場者が来るのか不安もありましたが、それぞれ熱のある企画に観衆も引き込まれ、充実のステージ企画となりました。

### 四　実行委員奮闘記

静福祭当日は、風が強かったものの、快晴の中、様々な企画、模擬店、野外ステージがほぼ滞りなく行なわれたのですが、そこに至るまでには実行委員の影での奮闘がありました。

準備万端で迎えた静福祭前日はまさかの大雨。例年学園祭の目玉となっている野外でのステージ企画ができない可能性が出てきました。しかし、何とか野外でやりたいという実行委員長の強い願いがありました。当日は、朝四時半からグラウンドの水はけ作業をどろどろになりながらやり、何とか野外ステージができたのでした。

当日は、模擬店の電源が取れなかったり、野外ステージでの時間調整がうまくいかなかったりなどアクシデントが続きました。しかし、後夜祭では、実行委員長が花束を渡され号泣するシーンもあり、皆心地よい疲労感と達成感を感じての終了となりました。実行委員の皆さん、本当にお疲れ様でした。

## 学生活動

### 一　バレー部焼津市民大会で準優勝

十月八日、焼津市民体育館にて、焼津市主催の男女混合バレーボール大会がありました。その大会において、バレー部が見事に準優勝しました。バレー部は二年生が中心のチームで部員も多いクラブではないのですが、三年生の積極的な参加で、いい雰囲気で練習ができたのが勝因のようです。おめでとうございます。

バレーボール部喜びの表情

### 二　バドミントン部焼津中央高校との合同練習

十月から、焼津中央高校のバドミントン部が大学の体育館を使用して練習を行なうことなり、静福大バド部も合同で練習を行なっています。静福大バド部は、大学からバドミントンを始めた選手が中心のチームで、外部の団体と試合をするのがはじめての学生も多かったようです。練習とはいえ、参加したバド部の学生にとって非常に良い刺激になったようです。

### 三　私学短大体育大会、静福生大活躍！

十一月二十三日、十二月三日と私立短期大学協会主催の体育大会があり、短期大学部の学生が参加しました。参加した種目は、バドミントン、フットサル、バスケット、バレーボールそしてソフトボール。成績はバドミントンダブルスに参加した杉山さん、金原さんが見事に優勝しました。その他、各種目に参加したチーム数は少なかったものの、ほとんどの種目で賞状をもらう健闘を見せました。参加した学生は、競技に参加し、他大学と交流を深められたことで非常に充実した時間を過ごせたようでした。

大健闘のバドミントン

# 保護者懇談会

静岡福祉大学がスタートして三年目となった今年の十月十五日（日）に初めての保護者懇談会が開催されました。

午前は、学長と八谷重之後援会長のあいさつから始まり、「学生生活全般について」「学生の就職活動について」「学生支援について」の事務的な説明の後、本学科の山城厚生教授による「期待できる静福学生気質」と題する講演がありました。

午後は学科別懇談会ということで、福祉心理学科、福祉情報学科、介護福祉学科に分かれて話し合いが行われました。

第1回 保護者懇談会

## ●学科別懇談会

### ■福祉心理学科

福祉心理学科では、まずどのような人材育成を目指しているのかといった学科としての理念や取得できる資格や受験資格、そして想定される就職先などの学科説明を行いました。さらに、この夏から始まった実習に関して時期や費用、実習先、注意事項などについて、社会福祉士と精神保健福祉士それぞれの説明を行いました。その後保護者の方から、実習と就職活動の時期が重なる点、保育士の試験について、大学院進学支援について、就職先の開拓の動きをホームページに載せて欲しいなどといった活発な意見や質問が出されました。また、多くの保護者が施設見学に参加してくれたことも教育環境への関心の高さが伺われました。

その後、なごやかな雰囲気の中で、成績や健康面、大学生活や友人関係、就職などに関して個別相談が行われました。

### ■福祉情報学科

福祉情報学科で実施された保護者懇談会には、六十五名の保護者の皆様にご参加いただき、学科の教育方針や教育内容の紹介、学科、教員の紹介などが行われました。その後、福祉情報室で展示・使用されている福祉情報関連機器や新設の福祉創造館などを、学科教員の案内のもと、見学していただきました。

また、個別懇談を希望された二十四名の保護者の方々につきましては、学科担当教員と個別に学生生活や学業成績、資格取得や将来などについて、より具体的な話し合いを行いました。そして、社会福祉士などの資格取得や就職活動に向けての準備など、学生生活について今後のアドバイスをさせていただきました。

普段家庭で顔を合わせていながらも、学生生活での悩みや将来について話し合う機会が少ないというご家庭も多く、授業の履修状況や大学での様子を知り、ご安心される方々も多く見られました。なかには予定時間を大幅に上回って話し合いが続く方もおられました。

今回の懇談会を通して、保護者の皆様の本学の教育や就職対策に対する大きな期待を感じることができました。そして、保護者の皆様との交流によって学生への理解をさらに深めることができました。これらを今後の教育活動へと活かし、皆様のご期待にお応えしていきたいと考えております。

### ■介護福祉学科

学科別懇談会では、学科長より、高い専門性と豊かな人間性を持ち、地域に貢献できる介護福祉士を養成する本学科の教育を説明しました。また、保護者と教職員が連携を図り、さらに、充実した学生生活が送れるよう支援していきたいという学科の方針も併せて話しました。続いて、二年生は就職・進学等の進路活動が順調に進み、二月に全国養成校の共通試験を控え、卒業に向けて学業に専念するよう支援していること、一年生は、入学から八ヶ月余りが過ぎ、授業やサークルを始め大学生活に慣れ、初めての介護実習も順調に終了し、成長してきたことなどを、各学年担当より報告しました。

その後、希望された保護者は、新校舎見学と教員との個別面談を行いました。懇談会を通じて、本学の教育に対し、理解を深めていただくと共に、教職員との信頼関係を深める有意義な会となりました。

## 入試情報

### 平成19年度　一般入学試験

| 試験区分 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表 | 入学手続き期間 |
|---|---|---|---|---|
| A日程 | 2007年1月15日(月)～1月30日(火) | 2月2日(金)2月3日(土)のどちらか選択(短大は2月2日のみ) | 2月8日(木)午後1時 | 2月8日(木)～2月15日(木) |
| B日程 | 2007年2月 8日(木)～2月20日(火) | 2月22日(木) | 2月27日(火)午後1時 | 2月27日(火)～3月7日(水) |
| C日程 | 2007年2月27日(火)～3月9日(金) | 3月13日(火) | 3月15日(木)午後1時 | 3月15日(木)～3月23日(金) |

### 社会人特別　選抜入学試験

| 出願期間 | 試験日 | 合格発表 | 入学手続き期間 |
|---|---|---|---|
| 2007年1月15日(月)～1月30日(火) | 2月2日(金) | 2月8日(木)午後1時 | 2月8日(木)～2月15日(木) |

# 学科だより

## ■福祉情報学科

### 高校生たちが楽しく体験学習

### 福祉情報まつり

10月29日(日)

手話をいきいきと表現するアニメーションキャラクターをくいいるようにみつめる高校生、指先1本でマウスを自在に操る仕組みを熱心に説明する本学の学生、環境にやさしいバターを学生たちと楽しげに作る教員――本学が初めて実施した福祉情報まつりは、社会福祉の新しい分野を紹介する楽しいイベントとなりました。

十月に落成したばかりの福祉創造館一階にところ狭しとばかり並んだパソコンや福祉機器がまつりの主役です。「来て見てさわれる福祉情報機器」「福祉ゲームアミューズメント」「福祉のコックピット～福祉ソフト体験～」といった機器を活用した展示のほか、「あなたの生まれた日の新聞を読んでみよう」「インターネットを活用した自動点訳」等の情報検索機能やインターネットを駆使した企画が人気を呼びました。

第1回 福祉情報まつり

隣接する教室棟では、「障害者に配慮したウェブページ作成講座」が開かれ、訪れた高校生に、在学生が学んできたウェブアクセシビリティのノウハウを慣れた手つきで教える姿が印象的でした。そのほか、「ドラえもんから考える地域福祉」といったコーナーや「先輩とお話しよう」、「なんでも相談コーナー」なども在学生がパワーを発揮。約七〇名の参加者が福祉情報学科の魅力を体験学習した一日となりました。

「環境にやさしいバター作り」来場者が在学生と一緒にバターを作り、ティータイムを楽しみました。

## ■福祉心理学科

### 福祉心理学講座

平成十八年七月二十六日、福祉心理学科の試みとして、「福祉心理学講座」が開催されました。当日は美しい夏空に恵まれ、静岡県全域や、近隣の県から三十名あまりの高校生が足を運びました。普段開催されている「体験入学」よりも、さらに深く心理学を体験してみたい、そんな思いを持った熱心な高校生ばかりでした。

1限目は森孝宏教授による「シネ・サイコロジー」。思春期・青年期の心の危うさをテーマとした映画『17歳のカルテ』を題材として講義が行われました。痛々しい場面も避けられませんでしたが、高校生は「心の闇」と「希望」について思いを巡らせているようでした。

2時限目は石原治教授による「心理学実験」でした。鏡の映像のみを見て線を描く「鏡映描写」の課題でデータを取り、その結果について分析しました。自分たちのデータから、明らかな練習効果がグラフに表されるのを目の当たりにし、参加生徒たちは思わず感嘆の声をあげていました。

「心理学実験」の講座

和気藹々としたランチタイムと施設見学、キャンパス散策などのフリータイムを終えた後は、小グループに別れての懇談会。教員や在校生もグループに加わり、身近な位置から参加高校生の質問に答えていました。

参加生徒からは、これまでになくじっくりと心理学に触れることができた、福祉心理学科のことをより知ることができたと、満足そうな声が多く聞かれました。

## ■介護福祉学科

### 第三回　卒業生懇談会

十一月二十二日にキャンパス内に新しくできた福祉創造館で、第三回卒業生懇談会が開かれました。当日は日頃の勤務をやりくりして、一期生から三期生まで十七名が、先輩・同僚や先生方に久しぶりに会えるのを楽しみに参加しました。懇談会は、学科長の挨拶と基調報告として大学や学科の近況に関する話で始まりました。卒業生は、最近の母校の様子について理解を深める機会となりました。

その後、出席者と教員が二つのグループに分かれ、卒業生一人

介護福祉学科・卒業生懇談会

一人が近況を報告するとともに、介護という仕事に対する思いや悩みを、学生時代に戻ったかのように熱く語り合いました。

一期生は、社会人となり三年目。介護保険制度下での介護福祉士に求められる責任ある職務、多職種との連携をとる人間関係の難しさ、労働環境、あるいは自分の人生経験について、後輩に熱心に話していました。三期生は、卒業後八ヶ月が過ぎ、国家資格保有者として、介護現場ではすでに実習生の指導をしていることや、介護業務のやりがいを感じ、頑張っている様子が伝わってきました。

教職員一同は、卒業生一人一人の成長した姿に接し、頼もしさを感じながら、来年の再会を約束して、本会を閉じました。

## 東海北陸ブロック教員研修

# 魅力ある学校づくりを目指して

介護福祉学科では、十二月七日に浜松で開催された日本介護福祉士養成教育校協会の東海北陸ブロック教員研修において、「介護福祉士養成教育を問う～魅力ある学校づくり～」をテーマに、東部福祉専門学校と二校で分科会を担当しました。

介護福祉士の高い専門性が問われる今日ですが、一方、学生や高校生の皆さんからみて、教育内容が魅力あるものであることも大切なことです。このために、卒業生や他の養成校教員を対象に、アンケート調査を行ない、その結果を基に報告しました。

また、「魅力あるカリキュラム」の事例紹介として、本学における五年間の取り組みをご報告しました。その内容は、①介護福祉士専門性を高めるカリキュラム、②介護福祉士の人間性を高めるカリキュラム、③地域福祉の担い手を養成するカリキュラム④「これからの介護」を海外福祉先進国に学ぶ取り組みの四項目にまとめられます。

今後も、在校生や卒業生の意見を生かして、より魅力のある学校をつくっていきたいと思います。

本学に興味のある高校生の皆さん、魅力あるカリキュラムをオープン・カレッジで体験してみませんか。

# 第六回図書館企画「点訳絵本」展

本学附属図書館では、二〇〇六年一〇月一六日～二〇〇七年一月三一日、第六回図書館企画「点訳絵本」展を開催しました。「児童福祉論」を受講している学生が製作した「点訳絵本」三四冊とふれあい文庫（代表岩田美津子さん）からお借りした点訳絵本十冊、図書館及び仲本美央講師所蔵の「点字絵本」や「さわる絵本」等を展示とともに、「点訳絵本」の製作過程やふれあい文庫についての紹介等の掲示を行いました。点訳絵本とは、一般に市販されている絵本の文章を塩化ビニール製の透明なシートに点訳し、原本の活字部分に貼り付けたり、同じシートで絵を形づくって貼りこんだり、説明文を書き添えたりして、見える人と見えない人が一緒に楽しめるように工夫した絵本です。作業工程には、細やかな配慮と技術が必要なだけに、一冊仕上げるために多くの日数を費やして取り組んだものです。

一連の取り組みを終了した学生からは、「この絵本を読む親子の姿を思い浮かべながら作成しました。」等という感想が述べられ、点訳の技術を学ぶだけでなく、福祉の担い手としての意識が芽生えた活動のようでした。企画展終了後には、地域への貸し出しが可能となるため、点訳絵本を必要とする多くの家庭で活用されることを願っています。

好評の「点訳絵本」展

# 福祉情報学科尾上弘和さん ユニバーサルデザイン アイデアコンクールで入賞

去る、十二月九日（土）沼津市立原小学校において、第七回しずおかユニバーサルデザインアイデアコンクール表彰式が開催されました。同コンクールでは、社会福祉学部福祉情報学科1年生尾上弘和さんが、一般部門において優秀賞を受賞しました。尾上さんは、誰もが日頃開けにくいと感じる牛乳パックに着目し、「牛乳紙パックの開けやすい開け口」という作品を生み出しました。

最終審査会においては、「今後、さらにより良く発展させたアイデアを生み出し、是非、商品化を目指して欲しい。」と審査員の方からコメントを頂いた程でした。今後の発展的取り組みに期待を寄せたいと思います。

ユニバーサルデザインアイデアコンクール受賞式

**編集担当**

今回、紙面づくりに中心的に関わった教員は、梼木てる子、中田薫、太田晴康、田崎裕美、仲本美央、岡澤裕子、小田部雄次、齋藤剛です。